

出版コンテンツのデジタル化 現状と可能性

日本出版販売株式会社
経営戦略室
小幡 祥文
亀井 理恵子

1. 電子書籍市場と出版業界におけるコンテンツのデジタル化

(1) 電子書籍市場の推移

2007年度の電子書籍市場規模 355億円（前年度比約2倍）

◎デバイス内訳

●携帯向け 283億円（前年度比2.1倍）

●PC向け 72億円（前年度とほぼ同じ）

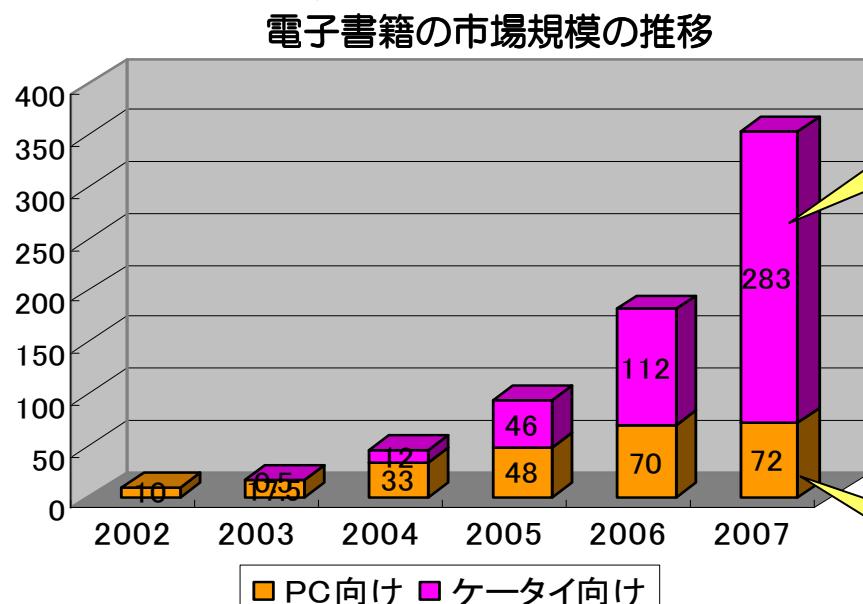
携帯シェアが80%

◎ジャンル内訳

●コミック 255億円（前年度比2.4倍）

●読み物/写真集 100億円（前年度比1.3倍）

コミックシェアが70%



出典：2008/7/11 インプレスR&D調査

《ケータイ内訳》
コミック : 229億(81%)
読み物／写真集 : 54億(19%)

■ケータイコミック市場
◎6～7割が女性
◎10～20代が中心
◎ボーカロイド・テイーンズ・ラブ・青年コミック
ジャンルが市場を牽引

《PC内訳》
コミック : 26億(36%)
読み物／写真集 : 46億(64%)

(2) 電子書店パピレス

電子書籍のダウンロード販売サービスを行う国内最大の電子書店

| | |
|--------|---|
| 沿革 | 1995.11 パソコン通信上で「電子書店パピレス」開始 1996.12 インターネットサイト「電子書店パピレス」開始 2003.10 au(KDDI)で携帯電話専用サイトを開始 2004.2 NTTドコモ、2004.4 ソフトバンク（旧vodafone）でのサイトを開始 |
| タイトル数 | 90,000超 (2008年10月現在) |
| 取引出版社数 | 450社 (2008年10月現在) |
| ジャンル | 小説・ノンフィクション／趣味・生活・雑誌／ビジネス・教育／漫画／写真集／壁紙・ゲーム |



パソコンサイト トップ <http://www.papy.co.jp/>

2005年
～
2007年
の伸びは
700%

(販売冊数
ベース)



ケータイサイト トップ

2. 大学図書館デジタル教材配信への雑感

(1) 各者のメリット・デメリット

| | メリット | デメリット(懸念) |
|------------------|---|---|
| 教員 | <ul style="list-style-type: none">・デジタル教材により教材作成負担を軽減・高価な専門書を学生にデジタル頒布できる | |
| 学生、研究者 | <ul style="list-style-type: none">・教材へのアクセスのしやすさ (ライフスタイル、学習スタイルの変化により、デジタル出版物のニーズが高まっている)・一度に複数のユーザが利用できる・いつでもどこでも | <ul style="list-style-type: none">・情報リテラシーの成熟度の格差(媒体としての「紙」の手軽さが逆にメリットになる) |
| 大学図書館 | <ul style="list-style-type: none">・ユーザのデジタルニーズに応じることにより、図書館の利用価値を高める・一番使う本を複数人に提供できる・書架スペースの節約(いらなくなる) | <ul style="list-style-type: none">・仕入れ、管理コストの負荷？ |
| 出版社 | <ul style="list-style-type: none">・重版を電子出版し、重版リスクをカバー・在庫リスクが減る | <ul style="list-style-type: none">・紙の書籍の売上が減る(意識)・著作権者への許諾、印税支払の負荷 |
| 書店 (生協、書店外商部) | | <ul style="list-style-type: none">・紙の本の売上が減る？ |

(2) 課題

①デジタル化のターゲット

● どういうコンテンツが必要か

*教科書としては現役だが絶版の書籍、図書館に1冊しかない書籍

→ 流通停止状態=デジタル化のターゲットになる

→ デジタル化によるコンテンツの掘り起こし

※収益性の検証、確立が最大の課題

②出版社との交渉（電子利用許諾、支払条件）

● 出版社への条件の設定、提示をどうするか

*電子版の価格設定、課金、料率、配布方法、貸し出し制限など

→ 出版社のメリットを考えての提案が必要

↔紙の本が売れることが最大利益と考える出版社が多い

● 出版社の著者許諾、電子化にかかる作業負荷の問題